



厚生労働省委託事業：感染症危機管理リーダーシップ人材育成事業

令和7年度IDCL(長期) 研修の様子を紹介



(寄稿)危機管理・運営局 企画調整部 上級研究員 佐藤 瞳

JIHSでは、厚生労働省委託事業として、公衆衛生行政、医療提供体制、感染症疫学や臨床等に関する専門的な知見や経験を有する既存の多様な職種の感染症専門人材に対し、地域における将来の感染症危機への対応においてリーダーシップを発揮する人材として、感染症危機管理に必要な多様かつ分野横断的な知識やスキルの修得や維持・向上を図ることを目的とした研修を実施しています。今回は、令和7年度4月から開始された長期研修の7～8月の様子を紹介します。

7月 感染症危機管理研究センター

感染症危機管理研究センター（CEPR）にて、OJT研修（On-the-Job Training：実践研修）を実施しました。研修では、海外情報を中心としたEBS（Event Based Surveillance）、リスク評価、演習・訓練の設計および実地支援の見学などを行いました。また、7月25日にはEOC（Emergency Operations Center：緊急時対応センター）訓練を実施しました。



緊急時検査対応の図上訓練

空港検疫所において、二類感染症である中東呼吸器症候群（MERS）の感染疑い例が探知された場合を想定し、CEPRによる緊急時検査対応の図上訓練を実施しました。訓練では、アクションカードに従って電話対応を行い、状況の進行に応じて対応を進める中で、情報伝達体制が適切に機能するかを確認しました。訓練の最後には、参加者それぞれが気づきを共有し、今後の対応力向上に向けた意見交換を行いました。

机上演習

目的: 感染症危機時の判断や意思決定のプロセスを実践的に学ぶ

講師: 岩橋慶美先生(広島県広島市健康福祉局保健部兼西区厚生部医務監)



講師: 岩橋慶美先生



参加者: 研修生・修了生・IDES・京大院

新型Zウイルス感染症が急速に広がるというシナリオをもとに、研修生が政令指定都市の保健所職員として対応にあたる演習を行いました。初期の情報整理から、検査の優先順位、政策の立案、感染拡大防止策の検討まで、実際の業務を想定した多面的な演習となりました。IDCL(長期)研修生に加え、R6年度IDCL(短期)修了生、IDES（感染症危機管理専門家）、京都大学ヘルスセキュリティディセンター大学院生が参加しました。

8月 国立国際医療センター 国際感染症センター

8月には国立国際医療センター 国際感染症センターでのOJT研修が実施されました。

8月1日より、国立国際医療センター国際感染症センターAMR臨床リファレンスセンターでの研修が開始しました。

AMR臨床リファレンスセンターでは、薬剤耐性（AMR）対策アクションプランに基づき、AMRに関係する臨床疫学研究とサーベイランス、国民と医療従事者を対象とした幅広い情報提供と教育活動を行っています。



J-SIPHE（感染対策連携共通プラットフォーム）についての講義を受け、練習用データを元に、デモ地域グループにおける耐性菌の発生状況を分析する実習を行いました。（上写真）8月18日より、院内感染管理室での研修が開始しました。2025年度感染対策地域連携強化加算カンファレンスとして堀ノ内病院を訪問し、感染対策に関する情報共有と助言を目的としたカンファレンスおよび現場ラウンドに参加しました。（左写真）

外部講義

「新興感染症の患者に対する医療と臨床研究」

講師：加藤康幸先生
（国際医療福祉大学成田病院感染症科教授）



臨床研究の役割、医療現場の歴史的変遷、コレラ・ペスト・エボラ等の感染症対応、医療従事者の感染リスク、情報共有・人材育成・倫理的課題などを包括的にご講義いただきました。現場でのリーダーシップや国際協力、臨床研究の重要性、社会的意義、人権配慮、医療体制強化について具体例を交えた解説をいただきました。